

平成31年度当初予算
部局別要求方針

下水道事業部

部局別予算要求方針

部の現状、課題、予算要求方針等を記入して下さい。

1 31年度予算要求にあたっての基本的な考え方(予算編成方針を踏まえて)

下水道事業は、雨水公費、汚水私費の経費負担区分の原則と、下水道使用料と一般会計繰出金を経営資源として収支均衡を図り、さらに分流式における汚水公費負担をもって使用者負担の水準を維持して適正なサービス対価としている。企業会計を導入したことにより、ランニングコストは使用料で賄い、イニシャルコストも使用料から回収し、再投資の原資として持続可能な経営を目指している。

これまで、下水道事業に対する繰出しが行政サービスを圧迫している要因の一端でもあることから、将来的な収支を見据えた予算規模の縮減を図る。

2 予算要求の重点事項(新年度の取組目標、新規施策等)

※部局内での事業の優先順位及び必要性を明記すること。

(優先すべき事業)

下水道事業全体で経営コスト削減を図るための取組事業

- ・農業集落排水から公共下水道への接続
- ・ストックマネジメントに基づく予防保全対策
- ・不明水対策
- ・適正な維持管理、機能維持修繕

(事業の必要性)

・10年後の下水道事業が、下水道ビジョン及び中期経営計画に掲げた取り組みの達成により、管理の合理化、経営の効率化、事務の省力化を達成し、持続可能なものとするため

3 事務事業の再構築(事務事業の検証・見直し、選択と集中の結果)

- ・公共下水道事業においては、適正な資金管理のもと、経営基盤の拡大により安定した使用料収入と繰出基準に沿った資本費負担を確保する。
- ・農業集落排水事業は、経営原価を意識したスクラップを進め、基準外繰出額の抑制を図る。
- ・水道事業への財政負担については、統合に関する財政協定により、繰出基準に基づく簡易水道への資本費負担を継続する。

